

令和7年12月

第63号

《編集・発行》

相模原市農業委員会

相模原市中央区中央2丁目11番15号

Tel 042-769-8292（直通）

相模原市農業委員会



農業のうごき



阿部会長（右から3人目）から本村市長へ意見書を提出。

令和8年度相模原市農地等の利用の最適化の推進に関する意見を提出

10月3日に農業委員会阿部会長から本村市長に対し「令和8年度相模原市農地等の利用の最適化の推進に関する意見」を手渡しました。

この意見は、農業者の皆様から農業委員や農地利用最適化推進委員へ寄せられた意見をまとめたもので、農地等の利用の最適化の推進をより効率的・効果的に図っていくために「都市農業の推進」「遊休農地の発生防止・解消」「担い手への農地利用の集積・集約化及び営農環境の整備」「新規参入の促進」の4項目について取りまとめました。

令和7年12月

農業のうごき

第63号（4）

農地再生モデル事業を実施しました

農業委員会では、農業者の高齢化や農業の担い手不足等により放置されている農地を農業委員、農地利用最適化推進委員が除草や耕作することにより、農地を再生する「農地再生モデル事業」を平成23年から行っています。

昨年に引き続き、所有者の高齢化により耕作できなくなった緑区鳥屋の農地で、津久井在来大豆を栽培しました。

鳥屋のモデル事業地では、6月下旬の種まきに向けた農地の整備をはじめ、除草、害虫駆除等を経て、11月下旬に約200kgの大豆を収穫することができました。

こうして再生された農地は、持続した農地の保全とともに、新たな担い手への引継ぎ、相模原市の農業の発展につなげていきます。



委員による種まき（6月）



畝立て後の畑（7月）



委員による収穫（11月）

令和7年度相模原市自治功労表彰

高橋 三行 農業委員が表彰されました

11月20日にけやき会館で令和7年度相模原市表彰式が開催され、15年にわたり農業委員を務められた高橋三行農業委員（中央区）が市長から表彰されました。



賞状を持つ高橋農業委員

令和7年度神奈川県農業委員会活動推進大会

青木 齊 前農業委員 伊藤 和彦 前農業委員会事務局津久井事務所長が表彰されました

11月6日に横浜市文化会館関内ホールで神奈川県農業委員会活動推進大会が開催され、長年にわたり相模原市の農業振興に貢献された青木齊前農業委員と伊藤和彦前農業委員会事務局津久井事務所長が表彰されました。



賞状を持つ青木前農業委員



賞状を持つ伊藤前農業委員会事務局津久井事務所長

『第61回相模原市農業まつり』が開催されました

11月9日、淵野辺公園中央広場で『第61回相模原市農業まつり』が開催され、たくさんの方々が地場農産物やその加工品の販売、イベントなどを楽しみました。農業委員会のブースでは、活動紹介や啓発活動を行いました。

また、ステージでは市内農畜産物を品評する「農畜産物共進会」の表彰式も開催されました。

【農畜産物共進会優秀賞 受賞者一覧】

区 分	部 門	受賞者名(敬称略)	区 分	部 門	受賞者名(敬称略)
立 毛	施設トマトの部	小俣 章洋	生産物	施設トマトの部	小俣 章洋
	梨の部	春山 秀男		施設キュウリの部	内田 一裕
	ぶどうの部	中里 正人		梨の部	春山 五十子
	露地ナスの部	佐藤 晴信		ぶどうの部	三澤 勝重
	ブルーベリーの部	小川 達也		柿の部	柿澤 貞夫
	露地トマトの部	小星 伸介		シクラメンの部	八木 雄一郎
	露地キュウリの部	佐藤 晴信		パンジーの部	八木 成子
	柿の部	柿澤 貞夫		ブルーベリーの部	小川 旬子
坪掘り	やまといもの部	佐藤 宏一	畜産物	キウイフルーツの部	佐藤 美穂子
		宮崎 則正		優等 鶏卵の部	有限会社 元木農場
	甘藷の部	佐藤 宏一			

※生産物 津久井在来大豆の部については、受賞者が決まりましたら改めてお知らせします。

市内のイベントで農業委員会の活動をPRしました！

11月9日に淵野辺公園中央広場で開催された『第61回相模原市農業まつり』と、11月15日にJA神奈川つくい本店構内で開催された『第37回JAまつり』で、農業委員会の活動や相模原市の農業を知っていただくことを目的にブースを設置し、パネルの展示と相模原市の農業にまつわるクイズなどを実施しました。



JAまつりでブースに集まる来場者



農業まつりでクイズに答える来場者

両日合わせて約580名の方が農業委員会のブースを訪れクイズに回答しました。回答者にはオリジナルのエコバックをプレゼントし、相模原市の農業をPRしました。

ブースを訪れていただいた皆様、ありがとうございました。

これからも相模原市の農業と農業委員会の活動にご協力をお願いいたします。

令和8年度相模原市農地等の利用の最適化の推進に関する意見の概要

※意見の全文については市ホームページをご覧ください。

1 都市農業の推進について

○地産地消の推進による販路拡大について

地場農産物等をアピールし、ブランド化による更なる販路拡大の強化や、子ども達が食への理解・関心を深め、農業の大切さを学べる取組の継続・拡充、小規模農家への支援策などを進めること。

○援農ボランティアについて

農作業をサポートするために必要であるとともに、市民が農業の理解を深める機会となることから、JAと連携し、増やしていくための取組を支援すること。

○農業生産コストの増加等への対応について

国・県の様々な施策について情報収集を行い、引き続き継続的な支援を要望すること。また、市として、農業生産コストの増加に対応する給付金の支給をはじめ、継続的な支援に取り組むこと。

○総合的な相談体制の充実について

補助金や農地のあっせんなど農業者の様々な相談や手続について、農業委員会・JA等の関係機関と綿密な連携を図るとともに、相談会の開催やホームページの充実など、相談しやすい体制づくりや分かりやすい情報発信に取り組むこと。

2 遊休農地の発生防止・解消について

○遊休農地の発生防止・解消に向けた取組を支援し、農業後継者のサポート体制の構築や、相続等により農業を継続できない場合に農地のあっせんなどを行う相談体制づくりについて検討すること。

○シカやイノシシなどの鳥獣被害は営農意欲の減退に繋がるため、旧市域も含めて対策を充実させるとともに、電気柵設置補助金の予算拡充、箱ワナ等で捕獲した小型鳥獣の処分に係る支援に取り組むこと。また、全国での先進的な取組事例を調査し、各地域の状況に応じた実効性の高い鳥獣被害対策を講じること。

○ツキノワグマの出没が増え、人命に関わる危険や農作物被害が懸念されるため、速やかに生息の実態調査を取りまとめるとともに狩猟の自粛の見直しを含めた方針を示すよう県に要望すること。

3 担い手への農地利用の集積・集約化及び営農環境の整備について

○「相模原農業振興地域整備計画」の農用地利用計画に掲げられた農道の補修・整備、用水路の整備等について取組を進め、特に大島諏訪森下地域の農道の整備、大沢地区の境界の明確化、金原地区の土地改良事業計画の検討については重点的に進めること。

○「地域計画」については、農業者の意向を踏まえながら随時見直し、関係機関との協議により役割分担を明確にし、連携しながら進めること。また、農業者に対して必要となる情報を随時周知すること。

○地下水及び道保川で有機フッ素化合物(PFAS)が指針値を超えて検出されており、今後も定期的に状況を確認するとともに、周辺の農業者等への情報提供を行うこと。

○資材置場等の設置により、営農環境や生活環境が悪化することないよう、市独自の条例策定を検討するなど対策を講じること。

4 新規参入の促進について

○JAやかながわ農業アカデミー等と連携し、市内の高校や大学に農業の魅力をPRするなど、市内に新規参入者を増やすための取組を推進すること。また、かながわ農業アカデミーと市内農業者の研修生の受入れ実績などの情報共有を図ること。

○新規参入希望者に対して、就農前の研修に係る補助・支援制度等の情報を周知すること。

○参入間もない農業者の早期経営安定のために、農機具や農作業場の確保などの相談に対し支援を充実すること。また、50歳未満に限定されている新規就農者向けの補助制度を50歳以上の新規就農者も交付対象とするとともに、親元就農の場合の交付要件を緩和するよう要望すること。